
14. 住民とまちづくり学校による博多まちづくり憲章づくり

博多部共同研究会
(福岡県福岡市)

I. 活動の背景・目的

博多は全国的に知られたまちであり、その歴史もまた古い。6世紀には既に対外政策の拠点として重要な意味をもっていたことが、記録に表れている。その後、海上交易を重視した平家とともに博多のまちは発展し、とりわけ戦国時代の前後には重要な商港として国内外にその名を馳せたという。わが国の多くの都市が政治権力と結びついて発展したのに対し、博多は商人のまちとして発展した。そこで育てられた下からわきあがるような自由と連帯は、毎年7月に行われる博多祇園山笠に象徴されるように、現在でも生き続けている。

しかし今日、博多は危機を迎えている。博多の商業都市としての機能が失われつつある一方で、中央資本の進出で多くの支店が博多に設けられることにより、地元住民の多くが土地を離れることを余儀なくされている。昭和30年代には4万人を数えた博多のまちの人口が、今日では1万5千人まで落ち込んでおり、まちに4つある小学校の児童数は1学年で10人に満たないところもあらわれている。まちの伝統を更新し、祭りを維持していく上で大きな危機に直面しているといえる。

そのような中、博多のまちを守っていこうという地元の人々を応援し、まちを共に再建していくことを目指して博多まちづくり学校は開校された。地元住民をはじめ、博多に事務所を構える建築家や大学の教員、さらには、博多には住んでいないが博多が好きだという人々が、この学校には参加している。



博多名物の山笠

II. 活動の内容

1. 1995年春期

博多まちづくり学校は1年2期制で活動を行っている。1995年春期は、「まちづくり憲章を生かしたまちづくり」というテーマで、各地で実際にまちづくりに携わっておられる講師の方々をお迎えして、まちづくりの実例を紹介していただいた。

- 5月13日 基調講演：「まちづくり憲章の基礎」 九州大学法学部教授 今里 滋氏
- 5月20日 「美の基準 真鶴町の試み」 アトリエP代表 池上修一氏（真鶴町）
- 5月27日 「情報主導型のまちづくり」 玄洋公民館主事 大内士郎氏（福岡市今宿地区）
タウン誌ふれあい編集長 古川ひろ子氏（福岡市竹下地区）
- 6月10日 「まちづくりのヴィジョン」 劇団立見席主宰 岩男淳一郎氏（湯布院町）
- 6月17日 「震災復興とまちづくり協議会」 まちづくり（株）コープラン 小林郁雄氏（神戸市）
- 6月24日 総括講演：「まちづくりの原点」 九州大学比較社会文化研究科教授 本間義人氏

2. 1995年秋期

1995年秋期は、春期で得た事例についての知識に基づき、グループ単位で博多まちづくり憲章の起草につながる課題演習を実施した。「『儲ける』『人を増やす』『自慢の種をつくる』」をキーワードに博多の将来を構想し、5箇条の博多まちづくり憲章を作成することを課題に、中間発表を含む計5回のワークショップ、およびその成果の発表である合評会を行った。

- 9月19日 演習ガイダンス 九州芸術工科大学助教授 岡 道也氏
ワークショップ
- 10月3日・17日 ワークショップ
- 10月31日 中間発表
- 11月14日 ワークショップ
- 11月23日 合評会

合評会では、5つのグループがそれぞれ自由に構想した「博多部のまちづくり計画」と「博多まちづくり憲章」案が発表された。今後、博多部4校区まちづくり協議会でこれらの「博多まちづくり憲章」グループ案を参考に、実際に「博多まちづくり憲章」が作成される予定である。



合評会での発表の様子

博多まちづくり憲章グループ案

【博多部まちづくり協議会有志グループ】

- | | |
|-------------|---------------|
| 「博多まちづくり憲章」 | 博多に学び博多に生かす |
| 1 都市の住居 | つんのうて住むなら博多たい |
| 2 自治の復活 | わきあがって手一本 |
| 3 自治の経済 | ぎんなん拾うて儲けはもやい |
| 4 博多の役割 | れんこん喰うて先走り |
| 5 連帯・感動・誇り | 心をひとつ、祝うたあ |

【博多住民有志グループ】

- 1 博多は自治の町である。
博多に町人会議と町長をおいて、住民のための政策を行おう。
- 2 博多は歴史の町である。
博多の過去、現在、未来を体験できる町にしよう。
- 3 博多はアジアに開かれた町である。
博多にいただけでアジアがわかり、いろんな品が手に入る町にしよう。
- 4 博多は水辺の町である。
川や海を住民に開いた、自由なスペースをもつ町にしよう。
- 5 博多は新しい文化を受け入れ、育てる町である。
お寺を地域に開放するとともに、町内を文化を育てる場にしよう。

【べいくどぼてとグループ】

博多居住五箇条

- 1 博多に住み、
博多を住める町にするのは私達です。
- 2 博多に住み続け、
博多を住み続けられる町にするのは私達です。
- 3 博多を住みこなし、
博多を住みこなせる町にするのは私達です。
- 4 博多を知り、
博多のよさを活かせるのは私達です。
- 5 気づいて、そして信じて下さい。
博多を活かすパワーが一人一人の中にあることを。

【きんしゃい博多グループ】

- 1 次世代に受け継ぐ、私達の誇り、財産づくり
- 2 そこに来る人、そこに住む人のコミュニケーションを繋ぐ空間づくり
- 3 生き生きと、ふれあいを感じる絆づくり
- 4 郷土を愛する、エネルギーある人づくり



合評会後の記念撮影

【一般参加グループ】

- 1 反権力の精神に基づいて、博多独立国を目指したまちづくり
- 2 町の歴史を大切にし、伝統と職人の息吹を感じるまちづくり
- 3 海外貿易を再開し、真にアジアに開いたまちづくり
- 4 新しい芸術が地域に根ざし、居住環境と調和するまちづくり
- 5 いつまでも水や風を感じられる、暮らしやすい都市生活ができるまちづくり

Ⅲ. 今後の活動

1996年春期の博多まちづくり学校では、これまでの作業をどう実践に結びつけていくかの手だてを考えるために、NPO（民間非営利組織）の実際と可能性について連続講義を行う予定である。そこで私達はまちづくりのための組織とはどうあるべきなのかを学んでいこうと考えている。

今後も、博多まちづくり学校は、博多のまちづくりを考え実践している人々を支援すると同時に、博多に住んではいないが博多が好きだ、博多に関心があるという人々を増やしていくことを目指して、活動を続けていきたい。